

フォーラム「健康医療情報の地域資源としての公共図書館」企画意図

図書館とがん相談支援センターとの 連携がもたらすもの

国立がん研究センターがん対策情報センター
八巻 知香子

2019年11月13日（水）

がんは2人1人、 でも、なっちはじめて…

- 「頭は真っ白」になった
- 「がん」はもう治らない？
- 病院のペースで治療が進んでいく…、本当にこれでいいの？
- これを飲めばがんが消えた！ 本当？



がんについて正しい情報が必要とされている

情報がまだ届いていない、困っている人がいる

がん診療連携拠点病院

全国どこでも質の高いがん医療が受けられるように
厚生労働大臣が指定した施設。



困ったことや不安なことがあれば



がん相談支援センター

にご連絡ください

2006年2月に誕生！

がん相談支援センター

全国に設置された、誰でも無料で相談できる窓口
「がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」
「地域がん診療病院」等に設置されている

現在進められている日本のがん情報提供ネットワーク

患者さん、ご家族、一般国民の方



情報提供

国立がん研究センター
がん対策情報センター
情報編集・情報評価

意見・提案

相談・
情報提供

情報収集・提供

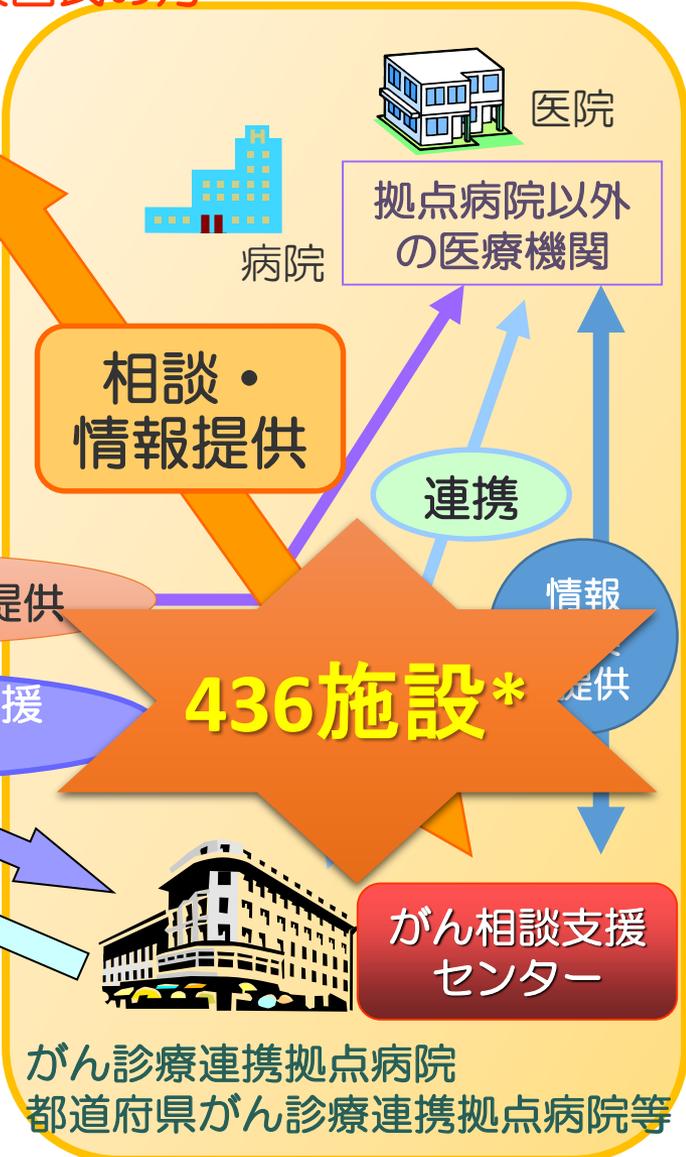
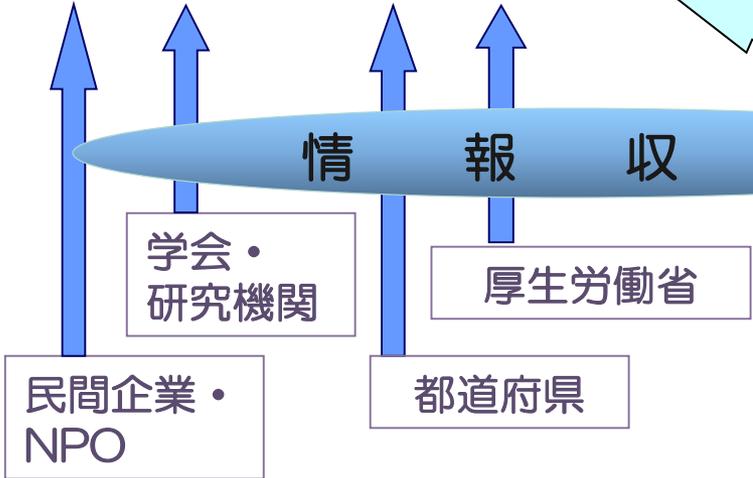
研修、診療支援
情報提供

436施設*

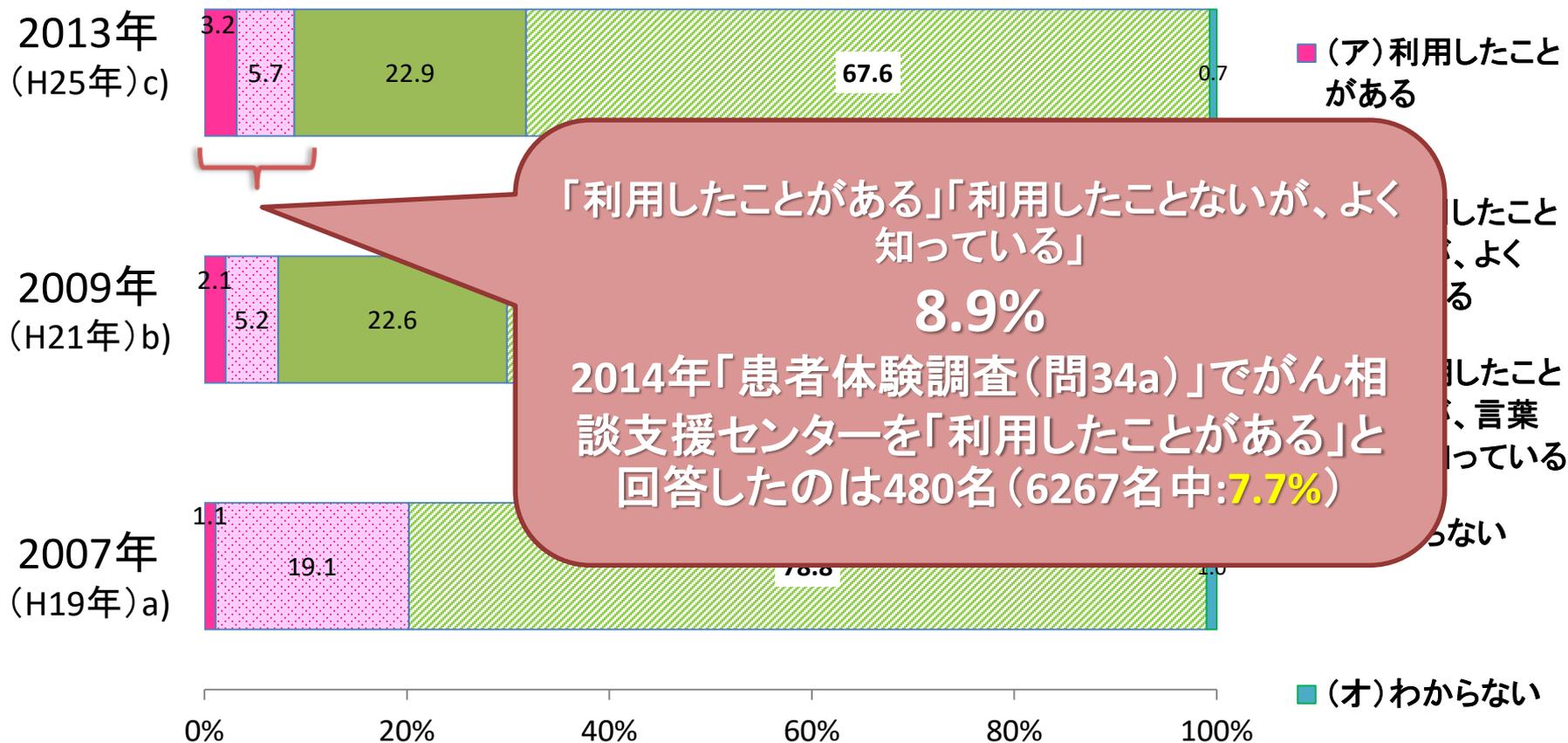
がん相談支援
センター

がん診療連携拠点病院
都道府県がん診療連携拠点病院等

各都道府県



一般市民の「相談支援センター」の認知度 経年推移



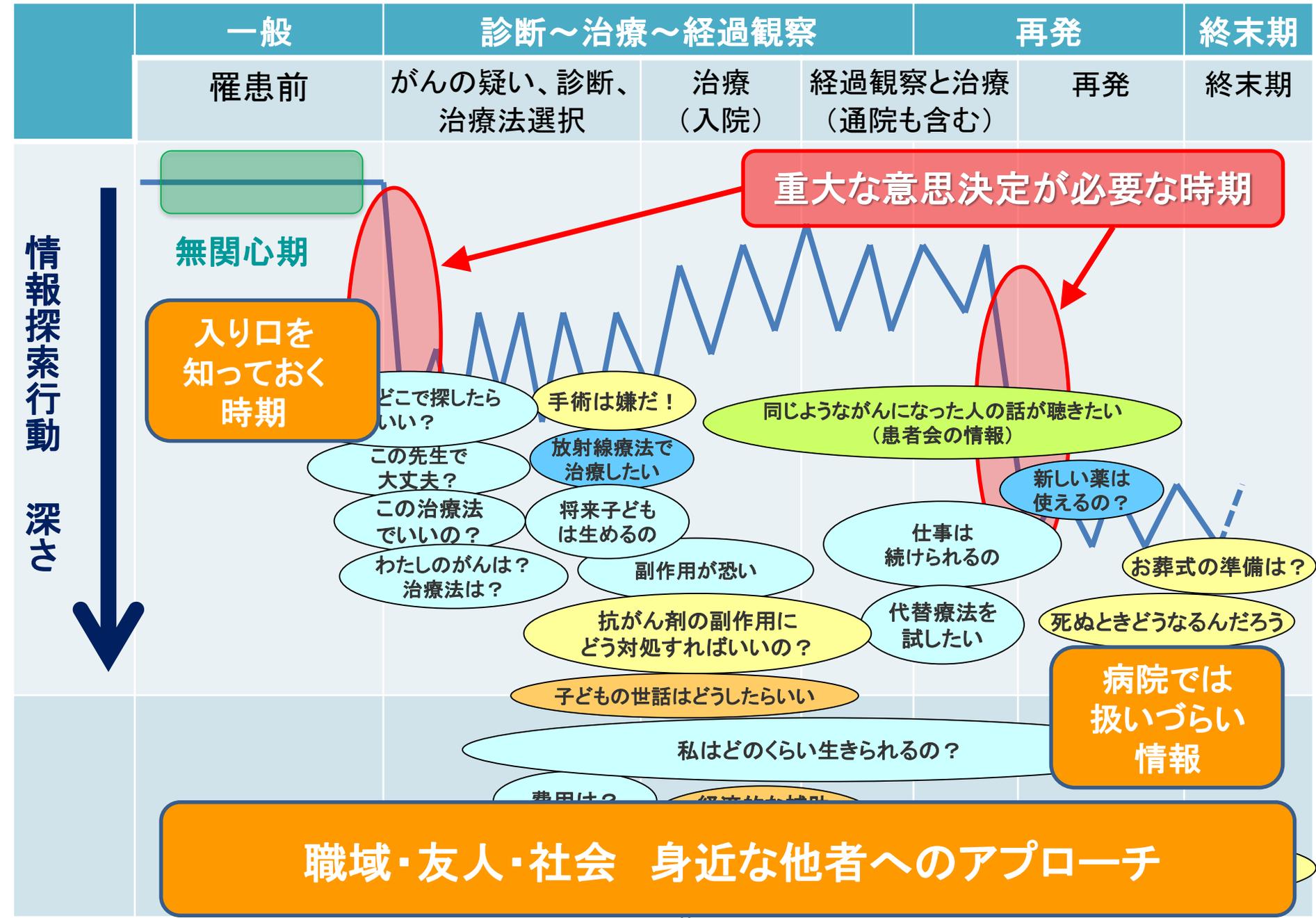
- a) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,767人(58.9%)
- b) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,935人(64.5%)
- c) 全国20歳以上の者、層化副次(3段)無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。4000人抽出、有効回収数1,233人(30.8%)

注) H19年世論調査では、(イ)「利用したことはないが、知っている」となっている。また(ウ)「利用したことはないが、ことばだけは知っている」の選択肢はない

出典 a)「がん対策に関する世論調査(平成19年9月調査)」。内閣府大臣官房政府広報室。<http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-gantaisaku/index.html>

b)「がん対策に関する世論調査(平成21年9月調査)」。内閣府大臣官房政府広報室。<http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-gantaisaku/index.html>

人の医療情報に対する関心の程度と情報探索行動



医療・行政・公共図書館との連携の魅力

医療機関からみると・・・

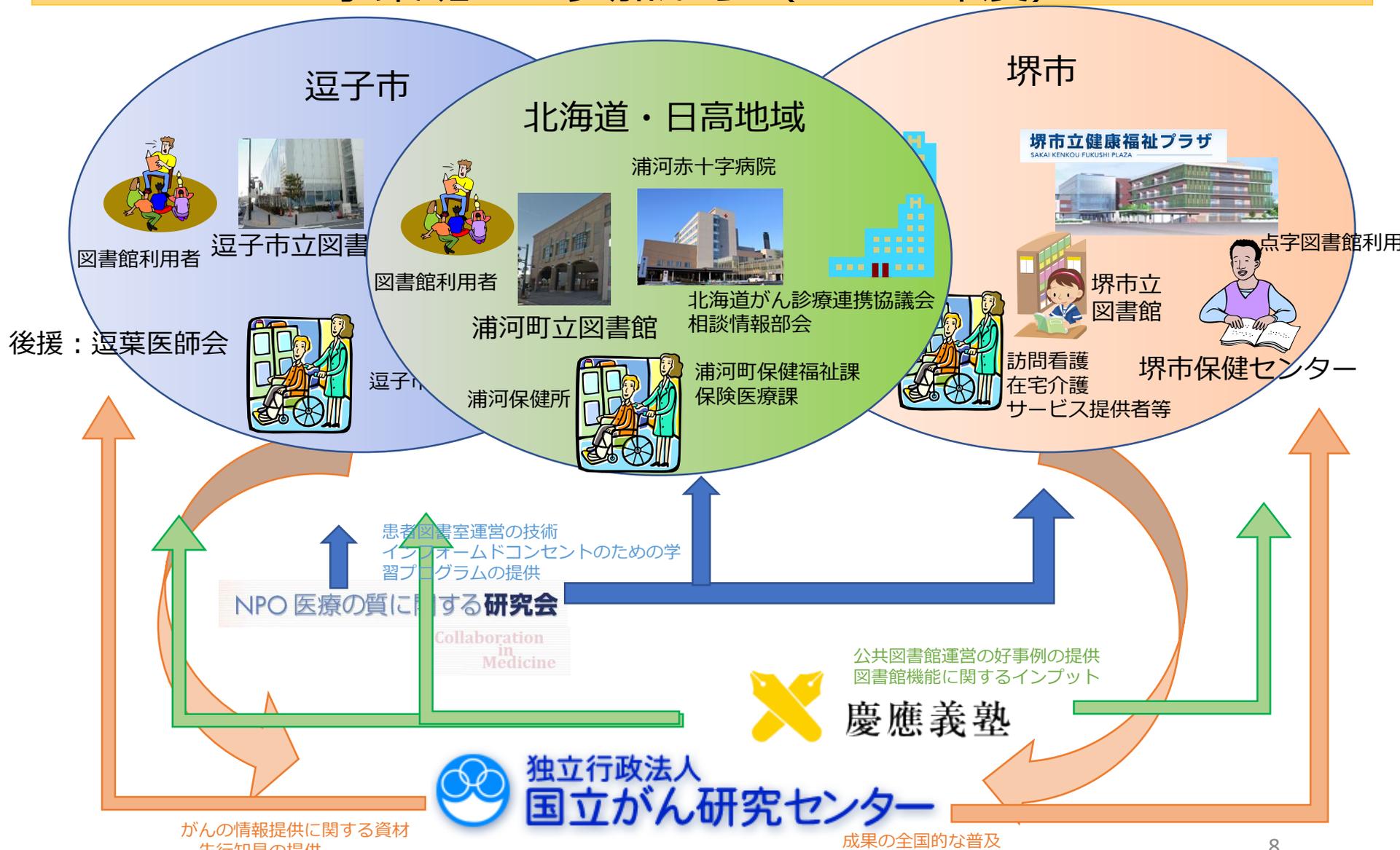
- 元気な人が生活の中で来る場所（だからこそ「死」も扱える）
  病気になって初めて訪れる病院
- 小さな町村にも
  基準を満たすがん診療連携拠点病院は偏在
- 社会教育施設としての様々な可能性
  医療機関でできることの限界

図書館からも・・・

- 扱いづらい医療情報についての方針を整理する場
- レファレンスで答えられない医療や病気についてのリファー先の確保

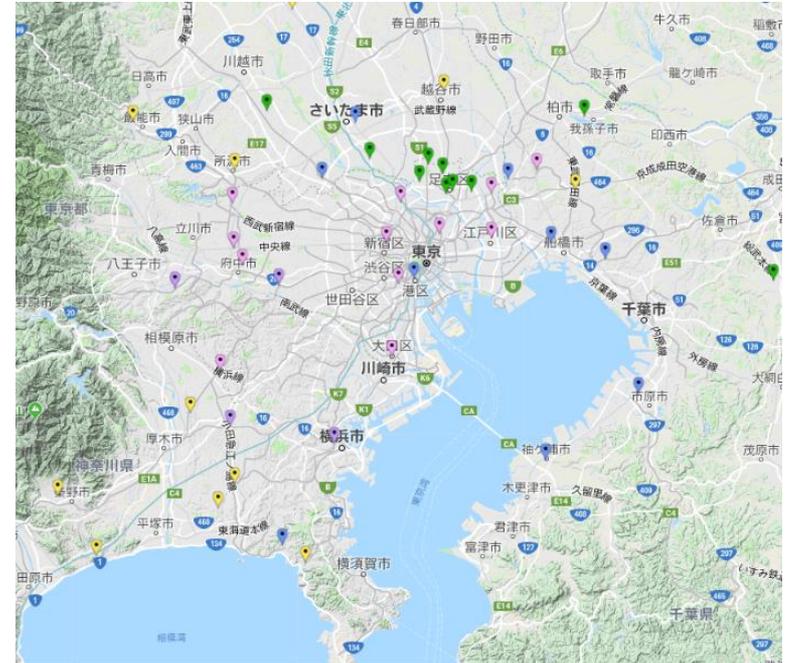
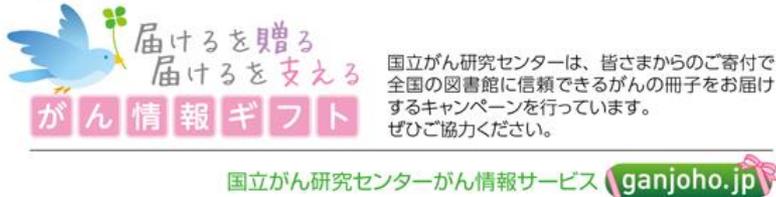
お互いの強みを活かせば、届けたくても届かなかった人に情報を届けることができる！

国立がん研究センター「継続的なワークショップ運営による 情報弱者向けがん情報ツールの作成と普及」 事業班への参加から（H26-28年度）



がん情報ギフトプロジェクト

国民の皆様からの寄付で、がん情報を身近な図書館へ



本プロジェクトをがん相談支援センターの周知や地域での情報提供のための連携一つのきっかけとしてご活用ください。

2019年9月末時点で、全国269箇所へ寄贈